

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院	実施機関名・連携機関名 ※実施機関名、及び連携機関名（ある場合のみ）を記載してください。 福島大学大学院人間発達文化研究科教職実践専攻（教職大学院）
等コラボ研修プログラ	事業名：学び続ける教師コミュニティ：学校改善リーダーシップ研修～ミドルリーダーへの期待～
ム支援事業報告書	研修等名：【NITS・福島大学コラボ研修】 主タイトル：学び続ける教師コミュニティ 副タイトル：学校改善リーダーシップ研修～ミドルリーダーへの期待～ 開催日時：令和4年12月3日 9時～16時10分 開催場所：福島大学（福島県福島市金谷川1番地） 参加人数（総数）と参加者の属性：(103人) 教員 26人、学校管理職 28人、研究者 12人、行政職・指導主事 13人、学部生 18人、大学院生 4人、その他 2人

内容：

9:00～9:05 福島大学大学院人間発達文化研究科長 初澤敏生氏による
主催者挨拶（写真1）

9:10～10:10 福島大学 人間発達文化学類 宮前 貢 元教授による講演
「受講者の皆さんの思い・願いを受けとめて考えること」（写真2）

受講者の皆様の本研修の受講動機や自己課題をもとに、①今、学校が抱える課題 ②スクールリーダーの使命と役割について、講演が行われた。「どの子どもも学びたがっている。子どもたちにとって学びたくなる授業を計画するのが教師」「学ぶ教師だけが教えることができる」「学ぶ教師をどう育てるかが重要」ということを、子どもたちに教えられたエピソードをもとにお話しされた。また、校長だけがスクールリーダーの時代ではなく、ミドルリーダー等の役割も大きい。学校の生命線は授業であり、校長の最大の仕事はカリキュラムマネジメント。Plan-Do-SeeのSeeが重要であり、日常の教育活動（授業）をよく見て、話し合い、思いや願いを伝え合い、次なる実践に生かしていく。「子どもを知り、子どもを守るには、一人一人の子どもの訴えに耳を傾け、聞こえない訴えを聞くことから始めなければならない」という言葉が強く心に残る講演だった。

10:15～11:45 筑波大学 人間系（教育学域） 浜田 博文教授
「学校の組織力と教師のエンパワーメント」（写真3・4）

基調講演では、様々な変革が押し寄せてくる中で、自身の学校にとって最優先すべき改革を考え、各々の立場で学校をどうリードしていくか、①各学校の自律性と協働性について（核になるものは学校としての共有ビジョン）②一人一人の教師のエンパワーメントについてご講演いただいた。リーダーシップとは「絵を描いてめざす方向を示し、その方向に潜在的なフォロワーが喜んでついてきて絵を実現し始める」こと、リーダーはめざすべき方向を可視化し、コミュニケーションを通して一人一人が動きやすい環境をつくること、教育活動の第一線で活躍する一人一人の教職員が意欲と力量を高める方向づけとしてリーダーシップの在り方を考えるべきであるというお話があった。また、米国の「効果的な学校」の研究等をもとに、個人の力の総和を超えた力をいかに生み出すかが組織のマネジメントであり、「個」の自律性を尊重し、多様な「個」による協働による教育実践の創造には「ウェブ（クモの巣）型」の学校組織におけるコミュニケーションが重要。校長のビジョンと各教師等のビジョン（課題意識）を紡ぐには、授業研究などを通じた教員同士の多方向のコミュニケーションが必要であると話された。

13:00～14:00 福島県教育庁 教育総務課長 堀家健一氏
「福島ならではの教育の実現に向けて」（写真5）

講演の内容は、①VUCAの時代における学校教育②複合災害からの復興・創生③日本の未来を先取りする福島県④未来を先取りする教育に求められる「チームとしての学校の在り方」であった。「AIや機械では代替できない『人間ならではの』力を育むことが必要」「福島県は大きすぎる課題に直面しているが、そこには大きなチャンスと希望がある」「『福島ならではの教育』を実現し推進していくことこそが、福島の課題を解決するとともに日本全体の成長・発展につながる」「地域社会と連携・協働しながら『社会に開かれた教育



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

課程』を実現していく『学校の在り方の変革』が必要」ということを豊富な資料をもとに熱く語られた。現在教育活動の第一線で活躍している先生方や福島県の教員となる学生の皆様等の心に意欲の灯をともし内容であった。

14:10～15:30 パネルディスカッション「学校改善をめざしたスクールリーダーの役割」（写真6）

パネラーの先生方による学校改善についての取り組みの発表があった。白河第二小学校 東城恵教諭より「日々の授業の検証・改善プロセスからの接近」、会津若松市立一箕小学校の渡部美沙主幹教諭より「教育の情報化に関わるミドルリーダーの役割」、三島町立三島小学校 渡邊匡彦教頭より「授業改善へ向けたカリキュラムマネジメント～資質・能力育成のストーリーと授業改善の仕組みづくりを通して～」、磐梯町立磐梯中学校 秋山了校長より「学校・家庭・地域の連携・協働による教育の推進」についての実践に基づいた発表であった。その後、「日常の授業を通じた教師の授業力向上」「子どもたちの最善の学びを創るカリキュラムマネジメント」についての意見交換が行われ、地域・家庭・学校によるビジョンの共有の重要性などについて話し合われた。

写真6



15:40～16:10 グループディスカッションでは、会場・オンラインそれぞれに3～4名に分かれて、本日の振り返りや「日頃の教育実践の悩み」について情報交換をし、今後の実践に向けたネットワークづくりを行った。

成果：

- アンケート(41件)結果は、「大変よかった」73.2%、「よかった」26.8%。以下が主な自由記述例である。
- ・宮前先生のお話は、心にしみるものが多く、学校のリーダーとしての心構え、子どもに対する見方などあらためて考え直すことができた。一人一人の先生方が同じベクトルでカリキュラムマネジメントを実施するために、どんな場や時間、支えが必要か考えさせられた。
 - ・堀家課長様のお話から、これまでの福島の現状をふまえた「福島ならではの」教育の可能性について見いだすきっかけとなった。今勤務している学校の「（地域）ならではの」「（地域）だからこそ」できる教育とは？とカリキュラムを編成する際に考えることができらばと思った。
 - ・パネルディスカッションの4名の先生方の実践的な内容や熱い思いも参考になった。規模や地域・立場が異なっても、子ども達のために、先生方のために、学校のために、地域のためにと力を注がれ、日々研修されていることを感じ、熱いパワーを頂いた。グループディスカッションは、悩みや今日の研修の振り返りなど共有もできた。
 - ・管理職として学校改善のための研修を受ける機会がなかなかない。内容は、リーダーシップ論から教育行政の最新動向、各職位による学校組織活性化に至るまで、幅広く大変勉強になった。
 - ・校長の最大の使命・役割が、「教育課程の編成・実施・評価」であることを令和5年度の教育課程編成に入る前に再確認できたことをはじめ、我々教員は、一人一人の子どもたちの聞こえない声にもっと耳を傾けなければならないことについても改めて考えさせられた。また、学校の組織力の捉え方についても見直す機会となり、個の自律性を尊重しながら、協働による学校経営を行っていく重要性を認識することができた。
 - ・教頭として日々業務にあたる中で見落としていたことや、勤務校の(自分自身の)課題が見えてきた。すべての講演・パネルディスカッションの内容が、今の自分にとって必要なものだった。

アイデアや工夫したこと：

- 「子供たちにとって最善の学びを創る学校」をめざし、教職員の協働による学校改善を推進したい。という思いを様々な立場のスクールリーダー（トップリーダー・ミドルリーダー・次世代のリーダーなど）の皆様とともに考えることを目的とし、様々な立場の皆様にご参加いただけるようにした。
- 対面型の研修を望む声も多かったため、対面とオンラインのどちらでも参加可能とした。対面参加（60名）オンライン参加（43名）の参加であり、ハイブリッド型の研修について好評だった。
- 様々な立場の方々の参加を呼びかけるため、県教育委員会を通じた各学校への周知、大学HPや授業を通しての情報提供、各地区校長会などへの説明、卒業・修了生への案内なども行った。

パネルディスカッションの様子



グループディスカッションの様子

